



大雪山  
国立公園

根室半島  
チヤシ跡群

北海道

札幌

帯広

釧路

根室

北海道

室蘭

上の国  
勝山館

五稜郭  
志苔館

松前城

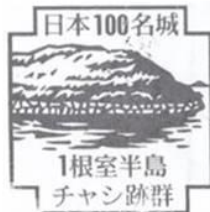
青森県

Google

# 01 根室半島 チャシ跡群

アトグン

--- 100名城 ---  
2022.07.27



チャシとはアイヌ民族により築かれた「柵囲い」を意味する砦/城郭の総称で、かつ祭祀の場、集会所、漁の見張り場など多目的に使われていました。  
道内には500ヶ所あまりが確認され、特に根室半島には32ヶ所のチャシ跡が集中しその内24カ所が「根室半島チャシ跡群」として国指定史跡に指定されています。



◆ チャシとは「砦・囲い」のことで、戦闘にも祭事にも使われた

チャシ跡を歩いてみますと、ただの「平らな原っぱ」としか見えず、空撮で初めて人工的に造られた丘陵だとわかります。この広大な平坦部の牧草を刈り取った、北海道を突感する ロールベールラップサイロ（ロール状に巻いた牧草）が至る所に有りました。

「チャシ女子」  
根室半島チャシ跡群イメージキャラクター



1 ボンモイチャシ	13 アツクシエト1号チャシ
2 オンネモトチャシ	14 アツクシエト2号チャシ
3 ヒリカタチャシ	15 ニランケウシ1号チャシ
4 トウシヤム1号チャシ	16 ニランケウシ2号チャシ
5 トウシヤム2号チャシ	17 ニランケウシ3号チャシ
6 コンブウシムイチャシ	18 ヨーナイ1号チャシ
7 サツコタンチャシ	19 ヨーナイ2号チャシ
8 ノツカマフ1号チャシ	20 ウエンナイチャシ
9 ノツカマフ2号チャシ	21 チャルコロフイナ1号チャシ
10 コタンケシ1号チャシ	22 チャルコロフイナ2号チャシ
11 コタンケシ2号チャシ	23 ニノウシチャシ
12 シエナハウシチャシ	24 アフラモイチャシ



ロールベールラップサイロ

牧草として刈り取られたチャシ跡の草原

# 02 五稜郭

--- 100名城 ---

2020.07.30



別名：亀田御役所土塁・柳野城

かめだおんやくしよどるい・やなぎのじょう

五稜郭は箱館開港時に箱館奉行所の移転先として築造された稜堡式の城郭です。築造中は亀田役所土塁または亀田御役所土塁とも呼ばれ、また元は湿地でネコヤナギが多く生えていた土地であることから、柳野城の別名もあります。1866年の完成からわずか2年後に江戸幕府が崩壊。短期間箱館府が使用した後、箱館戦争で旧幕府軍に占領され、その本拠となった。



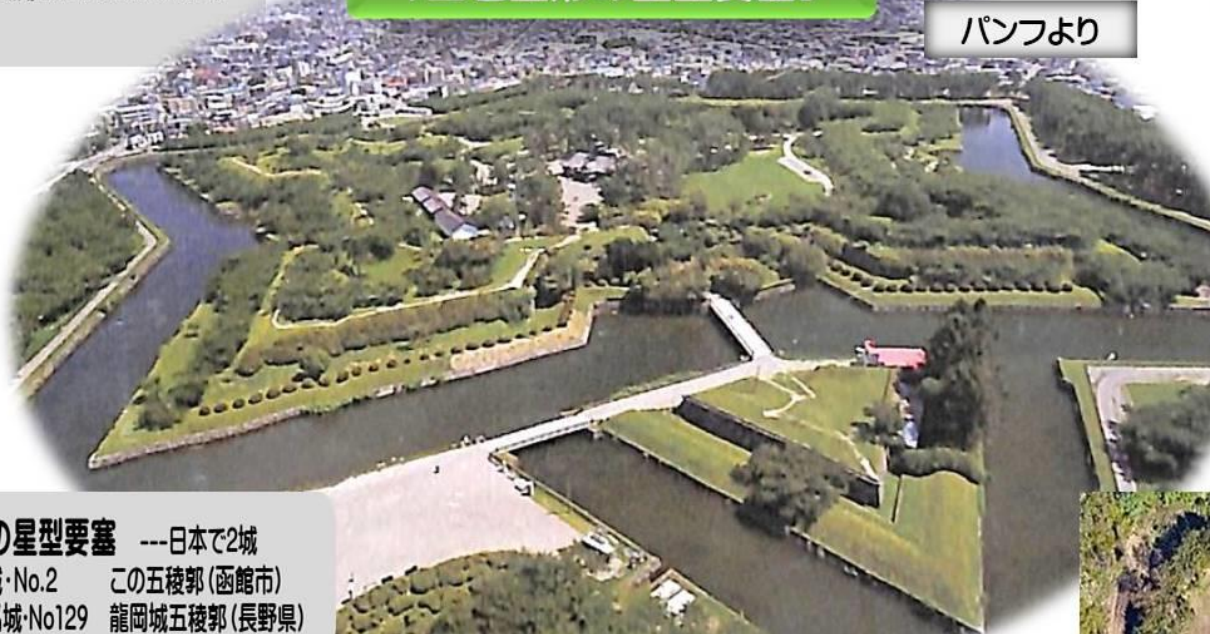
FB - 124

城跡を上から直に眺めるのは初めてで、素晴らしい眺めです。函館市に感謝です。

昨年、「続日本100名城」の200目までのお城に飽き足らず、「日本300名城」という本を見つけました。そこに四稜郭という城跡を見つけましたのでついでに廻ってきました。

「五芒星形の星型要塞」

パンフより



グーグルマップ

五芒星形の星型要塞 ---日本で2城

- ・日本100名城・No.2 この五稜郭(函館市)
- ・続日本100名城・No129 龍岡城五稜郭(長野県)

五稜郭タワーからの眺め



石垣は堀のほか半月堡と郭内入口周辺にしか築かれなかった。---当初は総堀のほか土塁全てに石垣を築く「西洋法石垣全備」を計画したが、費用が高むとともに石の切り出しに時間がかかることから中止された。また半月堡と大手口の本塁の最上には「城ね出し(武者返し)」が付いている。



「四稜郭」があるのをご存知でしたか？ 実は「五稜郭」の北北東3Km超のところに、「四稜郭」というのがあります。これは、明治2年、五稜郭を護るために急造された「洋式の台場(砦)」です。周囲に土塁と空濠をもち、蝶が羽を広げたような四稜星型をしています。国の史跡です。

# 03 松前城

--- 100名城 ---

2022.07.29



別名: 福山城

江戸末期、ロシアに対する北方警備の目的として江戸幕府が松前崇広に松前城の築城を命じた。そのため、石田城(続100名城・長崎県)と並び日本における最後期の日本式城郭のお城です。

江戸時代、公式には福山城と記されたが、当時から備後福山城との混同を避けるため松前城とも呼ばれています。



北海道は7月中頃から紫陽花の見頃で、お城から20分位の所にある「松前藩屋敷」で、水路にアジサイを浮かべる

「浮き紫陽花」が開催されていました。

しかし 残念ながらこの時は知りませんでしたので、下写真を見過ごしてしまいました。

悔しい!

浮き紫陽花



写真提供: 松前観光協会



# 101 志苔館跡

しのりだてあと

--- 続100名城 ---

2020.07.29



別名

志濃里館(しのりだて)

FB-126



## コシャマインの戦い ---アイヌと和人の戦い---

製鉄技術を持たなかったアイヌは鉄製品を和人(道南十二館など)との取引で行っていた。

応仁の乱のちょうど10年前の1457年、アイヌの男性「オツカイ」が志濃里の鍛冶屋に小刀(マキリ)の注文で、品質・価格について争いが発生、怒った鍛冶屋がその小刀でアイヌの男性を刺殺したのがこの戦いのきっかけです。

これにより渡島半島東部の首領コシャマインを中心とするアイヌが蜂起、和人を大いに苦しめたが最終的には平定され、松前藩形成の元となった

## 海を渡り和人が築いた室町時代の城

---築城年代が推定できる道内最古の和人の城---

「志苔館」は、15世紀頃、アイヌの人々が暮らす北海道に本州から渡った“和人”が築いた12の館(城)「道南12館」の一つです。アイヌの人々との戦い(コシャマインの戦いなど)で2度の落城を経験し、江戸時代を前に役目を終えました。



道南十二館



ガイドブックより

グーグルマップ



上空から見た志苔館  
(国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス  
より引用 志苔館付近の写真をトリミング加工)



内側より撮影

# 102 上ノ国 勝山館跡

かみのくに かつやまだてあと

--- 続100名城 ---

2022.07.29



別名: 上ノ国館・和喜館・脇館  
(わきだて)

FB - 127



勝山館跡ガイダンス施設↑・内部↓

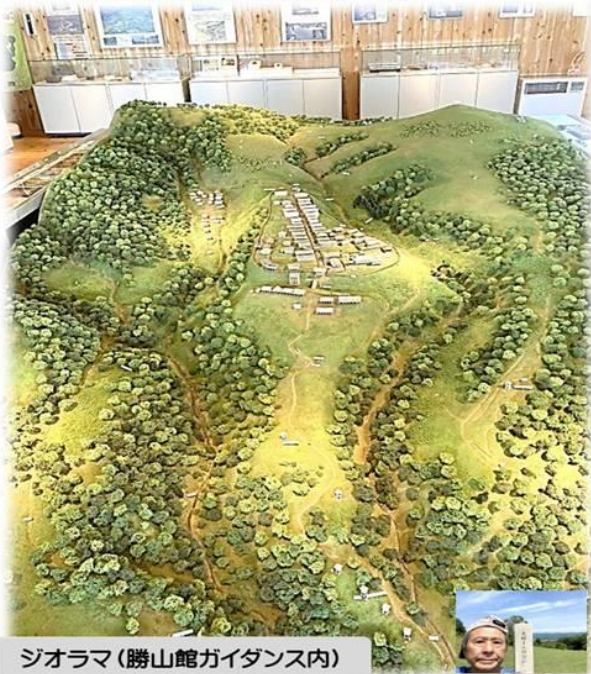


「かみのくに」[上の国]という何か厳かな響きと、なだらかな山の中腹にポツンと建っている館跡ガイダンスの建屋そのものも相まって、不思議な空間を感じてしまいました。

北海道で最初に和人が入植したのが夷王山(いおうさん)です。先の志苔館の「道南十二館」の一つに花沢館があり、後の勝山館の母体となります。夷王山の中腹、南から北へと伸びる斜面を利用して長さ270m、幅100mで総面積20.9万m<sup>2</sup>の規模を有します。



## 勝山館 C.G 復元と整備



ジオラマ(勝山館ガイダンス内)

